ニーズ調査の結果を踏まえて

2-1 子どもの育ちをめぐる環境について

砺波市の子どもの育ちを巡る環境として、子育ての支援体制が備わっており、また祖父母等の親族や友人・知人等身近な人による支援体制が整っている家庭が多いと考えられます。一方で、緊急時に子どもをみてもらうことが難しかったり、気軽に相談できる相手・場所がない家庭もみられることに留意が必要です。

2-2 保護者の就労状況について

保護者の就労状況について、両親ともに就労をしている方が多く、また現在就労していない母親においても就労意欲を持つ方がみられることから、子育てしながら就労できる環境づくりを継続的に行っていくことが求められています。

2-3 平日の定期的な教育・保育事業の利用について

定期的な教育・保育事業の利用者は増加傾向にあり、また、事業の利用希望場所も「砺波市内」を望む方が多いことから、砺波市内で定期的な教育・保育事業を利用できる環境を維持し続けることが求められています。

2-4 地域子育て支援事業の利用について

地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター）の今後さらなる利用を希望する人がおよそ3割みられる一方で、地域子育て支援拠点事業を利用していない人が83.5%となっており、事業内容や利用方法等の周知を図り、積極的な活用を促進していくことが必要です。

子育て関連事業についてみると、「教育相談センター・教育相談室（ひよどり教室、にこにこ相談）」、「親子ふれあい塾」の利用を促すため、各事業の認知度の向上を図る必要があるといえます。

また、今回新たに加わった「子育て支援アプリ（となみっ子なび）」については、利用希望が多いことから、デジタルを活用した子育てに関する情報発信の充実を図っていくことが求められています。

2-5 土曜・日曜祝日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業について

土曜・日曜祝日の教育・保育事業や、幼稚園利用者の長期休暇中の教育・保育事業の利用希望が一定数みられることから、土日・日曜祝日や長期休暇中に事業を利用できる環境を整備することに加え、幼稚園の長期休暇中でも利用できる子育て支援制度の提案や「預かり保育」の周知や拡充などを図っていくことが必要です。

2-6 子どもが病気の際の対応について

子どもが病気やケガの際、保護者が休みを確保し対応できる就労環境が整備されているとも考え

られますが、病児・病後児保育施設のニーズもみられるため、病児・病後児保育に対応できる環境を整備し、利用方法の周知や利用に対する保護者の不安を減らす取組を行っていくことが求められています。

2-7 不定期の教育・保育事業の利用について

現在、多くの方が不定期の教育・保育事業を利用していない状況ではありますが、利用ニーズはみられることから、事業内容や事業の利用方法（手続き等）について周知を図ることが必要です。

現在は、子どもを泊りがけで家族以外にみてもらう状況自体が少なく、泊りがけになった場合は親族・友人による支援体制がある方が多い状況ですが、親族・友人に頼ることが難しい方をサポートする体制を整えていくことも必要だと考えられます。

2-8 小学校の放課後の過ごし方について

長期休暇期間中は放課後児童クラブの利用ニーズが高いと考えられるため、長期休暇期間中に放課後児童クラブを利用できる環境整備が必要です。

また、放課後児童クラブの開所時間については、小学生保護者のおよそ3割が開所時間の延長を希望しています。

2-9 職場の両立支援制度について

子どもが生まれたときの保護者の育児休業取得状況をみると、職場における女性の育児休業への理解が大きく進んでいると考えられます。

また、男性が育児休業を取得する機運が醸成されつつあるものの、一部では業務負担量の多さや育児休業が取りづらい職場の環境が、育児休業の取得を阻んでいると考えられます。

さらに、父親が希望よりも早く育児休業から復帰した理由として「経済的な理由で早く復帰する必要があった」が最も多くなっており、経済的事情で育児休業を希望通り取得できず、父親が早く職場復帰をしなければならない状況になっていると考えられます。

引き続き、国や県と連携しながら企業への啓発を図るなど、仕事と子育てが両立できる職場環境づくりを支援していくことが求められます。

2-10 生活の状況について

物価高騰等、世の中の経済状況が大きく変化する中で、子どもの貧困対策などに関する取り組みを推進することが求められています。

また、子育てに対する意識については、保護者の子育てを肯定的に捉える意識を高めると同時に、子どもへの虐待防止の取組みを推進することが重要です。

2-11 ヤングケアラーについて

ヤングケアラーという言葉は広まっているといえます。ヤングケアラーが相談しやすい環境づくりとして必要なことについては、ヤングケアラーである当事者が「いつでも」「簡易な方法で」相談できる環境づくりが必要だと考えられます。

2-12 砺波市の子ども・子育て支援について

今後の砺波市の子ども・子育て支援への要望として、医療費助成や児童手当等の子育てに関する支援制度の充実だけでなく、「子どもが安心して勉強できたり遊んだりできる居場所」など子どものための空間づくりに対するニーズも高まっていると考えられます。

2-13 小学生の放課後の過ごし方・家の近くにあってほしい場所について

家の近くにあってほしい場所として「ジャングルジムやブランコなどの遊具があるところ」「ボールあそびができるところ」の回答が多く、外遊びができる環境のニーズは高いと考えられます。